

狂言学習：リハーサルを行いました（6年生）《NO.1》

11月20日（月）に、平之荘神社で、6年生が、狂言発表会のリハーサルを行いました。

山口先生からは、「今日は、リハーサルです。本番と同じようにします。この前の稽古は、かなり上達をしていました。楽しみにしています。」「よく稽古ができています。」とお言葉をいただきました。



【めあて】

- 観客に、自分の声を届ける。
- 私の演技を観てくださいという思いをもって演技をする。
 （思いをもって演じると、観客の心に必ず届きます）

リハーサル前には

浴衣と袴に着替えた子どもたちから、運動場で、自主稽古を始めました。



「山口先生、おはようございます。今日も、よろしくお願いします。」

山口先生からは、リハーサルのねらいや心構えを教えていただきました。その後、みんなで円陣を組んで、気合を入れました。



リハーサル、頑張るぞ！



いよいよリハーサルです。その前に！
子どもたちは舞台の掃除を始めました。山口先生に、「舞台の上に、落ち葉が落ちています。きれいにしましょう」と声をかけていただきました。



『附子』より



演技が終わり、お辞儀をして帰る時は、役（演じ手）ではないので、後見と同じ歩き方をします。



演じ手は、後見（普通に歩く）と同じ歩き方をしない。

橋掛かりへの階段の1歩目から小舞の歩き方をします。**足はゆったりと、胸を張って真っすぐに歩く。堂々と歩く**ように意識しましょう。

狂言発表会当日は、お休みの日でもあり、観客は境内いっぱいになるでしょう。観客は、「今年の狂言は、どんなだろう。」と楽しみにして集まってください。何百という目が、舞台上のみなさんに集まってくると思います。堂々とした姿を見せてください。



【山口先生より】絶好調です。

「そりゃ退け」をもっと強く表現しましょう。床をバンと叩いて、「そりゃ退け」の**👊**をしっかりと伝えましょう。

逃げる時に、背中が逃げていません。この場面の**半分は、観客に背中を覗られています**。背中で逃げていた姿を見せる場面です。

バンと床を叩いて立ったら、一目散に橋掛かりまで逃げて行くのです。背中を絶対に曲げない！



逃げる場面は、背中で演技をします。いい役者は、背中で演技をします。